

短期労働者受け入れ政策の規範的考察

A normative analysis of temporary labour migration programmes

岸見太一（早稲田大学）

KISHIMI Taichi (Waseda University)

キーワード：短期労働者受け入れ政策、家事労働者、人の移動の政治理論、構造的不正義、ジェンダー、人種

Key words: temporary labour migration programmes, domestic workers, migration in political theory, structural injustice, gender, race

本報告は、現代政治理論（政治哲学）の観点から、短期労働者受け入れ政策における労働者の取り扱いの正当性を規範的に分析する。

現代政治理論において人の移動はあまり論じられてこなかったが、2000年代以降の移民・難民問題の政治的争点化も背景として研究者が増加しはじめ、2010年代には多くの重要な著作や論文集が近年相次いで出版されるようになった(Carens 2013; Miller 2016; Fine and Ypi 2016; Sager 2016)。本報告における「短期労働者受け入れ政策」とは、受け入れ国において労働力が不足する特定の職種に就労する外国人労働者に対して、短期間の滞在を許可する政策を意味する。この滞在許可は、延長が原則的に認められない、家族の同伴も認められないなどの制約が課されることが多い。日本でも不足分野の労働力を確保するために、技能実習制度の拡大による建設労働者の受け入れや、国家戦略特区による家事労働者の受け入れの受け入れがなされている。この政策は多くの国家において実施されているが、本報告では日本も含みリベラルデモクラシー諸国における政策実践を念頭に置く。

現代政治理論においては、短期労働者の受け入れ政策の規範的な正当性について次のような論争が存在する。一方の立場は、労働者の人権を保護するために必要な市民的権利の保障と最低賃金規制を含む労働法規の実効的な適用がなされるならば、滞在資格の延長を認めず送還することと家族の同伴を認めないことは正当化されると主張する(Stilz 2010; Miller 2016)。他方の立場は、リベラルデモクラシーの規範や国内の労働市場に対する影響などを根拠として、短期労働者受け入れ政策は正当化されないと主張する(Lenard 2016; Ypi 2016)。この論争の焦点は、(1)短期労働者としての移動の選択は労働者本人が自発的に決定したものであり、(2)移住労働者の収入は出身国よりも増加するという点で受け入れ国の成員と移民労働者がウィンウィン(win-win)の関係にあるという二つの前提条件が満たされている場合に、それでもなお短期労働者受け入れ政策は規範的に正当化されないものであるのかどうか、という点に当てられている。

しかしながら報告者は、既存の論争における二つの立場はともに、受け入れ国の成員と移民労働者の間における利益と便益の分配という点からのみ規範的正当性を分析しており、ジェンダーや人種などの構造的な要因を看過している点で問題があることを指摘する。人の移動の問題の規範的分

析においては、ジェンダーや人種がもたらす構造的な影響までが考慮されなければならない(Fine 2016; Higgins 2017; cf. Young 1990)。

報告者は、構造的な要因に注目することで、短期滞在者受け入れ政策における滞在資格延長と家族呼び寄せの不許可は、現実の多くの文脈において現にある構造的な不正義を深刻化させるため規範的に問題があると主張する。この点を明確にするため、本報告はフィリピンからの家事労働者の受け入れを事例として取りあげる(cf. Parreñas 2015; Kittay 2009)。本報告ではさらに、家事労働者の短期労働者としての受け入れが規範的に問題のないものであるためには、受け入れ国の成員にはどのような対処策が要請されるかを示すことを試みたい。

参考文献

- Carens, Joseph H. (2013) *The Ethics of Immigration*. Oxford University Press.
- Fine, Sarah (2016) 'Immigration and Discrimination', in S. Fine and L. Ypi (eds.), *Migration in Political Theory*. Oxford University Press, pp. 125–50.
- Fine, Sarah and Ypi, Lea (eds.) (2016) *Migration in Political Theory*. Oxford University Press.
- Higgins, Peter (2017) 'A Feminist Approach to Immigrant Admissions', *Hypatia*, 32(3), pp. 506–22.
- Kittay, Eva Feder (2009) 'The Moral Harm of Migrant Carework', *Philosophical Topics*, 37(2), pp. 53–73.
- Lenard, Patti T. (2016) 'Temporary Labour Migration and Global Inequality', in A. Sager (ed.), *The Ethics and Politics of Immigration: Core Issues and Emerging Trends*. Rowman & Littlefield Publishers, pp. 85–102.
- Miller, David (2016) *Strangers in Our Midst*. Harvard University Press.
- Parreñas, Rhacel Salazar (2015) *Servants of Globalization: Women, Migration and Domestic Work*, second. Stanford University Press.
- Sager, Alex (ed.) (2016) *The Ethics and Politics of Immigration: Core Issues and Emerging Trends*. Rowman & Littlefield Publishers.
- Stilz, Anna (2010) 'Guestworkers and Second-Class Citizenship', *Policy and Society*, 29(4), pp. 295–307.
- Young, Iris M. (1990) *Justice and the Politics of Difference*. Princeton University Press.
- Ypi, Lea (2016) 'Taking Workers as a Class', in S. Fine and L. Ypi (eds.), *Migration in Political Theory*. Oxford University Press, pp. 151–74.